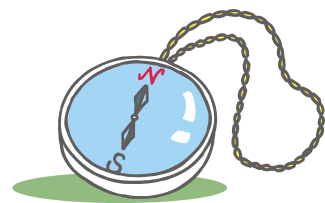


羅 針 盤

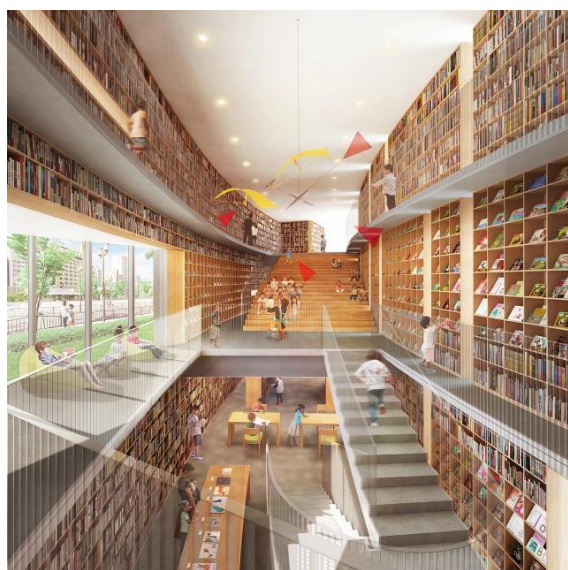


第**21**号

令和2年（2020年）10月19日（月）

◆ 「こども本の森」

建築家の安藤忠雄（あんどうただお）さんが設計・建設し、大阪市に寄贈した図書施設「こども本の森」が北区中之島に7月にオープンしました。「読書を通じて、未来を担う子どもたちの想像力と勇気を育みたい」という安藤さんの願いが込められています。壁いっぱいの本棚には、乳幼児から中学生までを対象とした絵本や児童書などが、約1万8000冊の本が並んでいます。設計した安藤さんが重視したのは、「子どもの心を解き放つ」ことだそうです。来場者が館内だけでなく、テラスや外の公園など、好きな場所で読書ができるように工夫されています。「現在の子どもたちは自由な時間が少ない。自由に本を読んで、物事を考える場所が必要。」と思われたそうです。「手にした本から得た感動、言葉こそが心に響く」と考えておられ、神戸や東北が大きな地震による災害を被り、復興していくために自分自身ができることとして、神戸市の東遊園地と岩手県遠野市にも子ども向けの図書施設の整備を進めておられます。二つの大震災、そして、今回のコロナ禍で、「地球は一つ」と改めて実感したとおっしゃっていて、地球温暖化や、人口問題など、人類が直面している世界規模の課題も数多くあるけれども、「現代は常識にとらわれない広い視野で物事を考え、勇気をもって行動する力が大事。それを育むことができるのが読書だと思う。豊かな感性を持った子どもたちに、世界へ飛び出してほしい。」と力説されています。今のところ「こども本の森」は、新型コロナウイルス感染症対策として、1回（90分）の来館者は事前に予約した50人と限定されてはいますが、機会があれば是非一度来館されてみてはいかがでしょうか。一冊の本との出会いが、君たち一人ひとりに「想像力と勇気を」与えてくれることがあると思います。



地球は一つ」と改めて実感したとおっしゃっていて、地球温暖化や、人口問題など、人類が直面している世界規模の課題も数多くあるけれども、「現代は常識にとらわれない広い視野で物事を考え、勇気をもって行動する力が大事。それを育むことができるのが読書だと思う。豊かな感性を持った子どもたちに、世界へ飛び出してほしい。」と力説されています。今のところ「こども本の森」は、新型コロナウイルス感染症対策として、1回（90分）の来館者は事前に予約した50人と限定されてはいますが、機会があれば是非一度来館されてみてはいかがでしょうか。一冊の本との出会いが、君たち一人ひとりに「想像力と勇気を」与えてくれることがあると思います。

◆ 季節は秋へと移り変わっています

先日、大阪府の北摂にあるコスモス畑に出かけてきました。季節はすっかり秋へと変わってきています。昼夜の寒暖の差に移り行く季節を感じる人もいるかもしれませんが、ときには都会の喧騒を忘れるためにも、人里離れた場所へ足を運ぶことも良いかもしれません。日頃は気にも留めていなかった景色に目をやり、心安らぐ時間を過ごすことは、ストレスを消し去り、心身ともにリフレッシュすることに気づかされるものです。周りの空気までもが違うように感じるような場所へ時間を見つけて出かけてみてはどうでしょうか。

